

# チームオンコロジーABC

(がんチーム医療の基本)

よりよいがん医療を  
目指して

米国テキサス大学  
M.D.アンダーソンがんセンター 准教授  
上野直人

# チームオンコロジーの定義

- 医療従事者が患者のニーズを考慮しつつ  
ガンの治療とケアを目指して連携プレーをする
- 医療従事者が証拠(エビデンス)に基づいて判断  
する。標準療法とそれ以外の治療(例、臨床試験、  
代替療法)の違いとその適応を明確に日々の臨  
床で明確にする
- 医療従事者がハイレベルな癌の研究を目指して、  
連携プレーをする(エビデンスの発信)

# チームオンコロジー のミッション

患者満足度  
の向上

医師

看護師

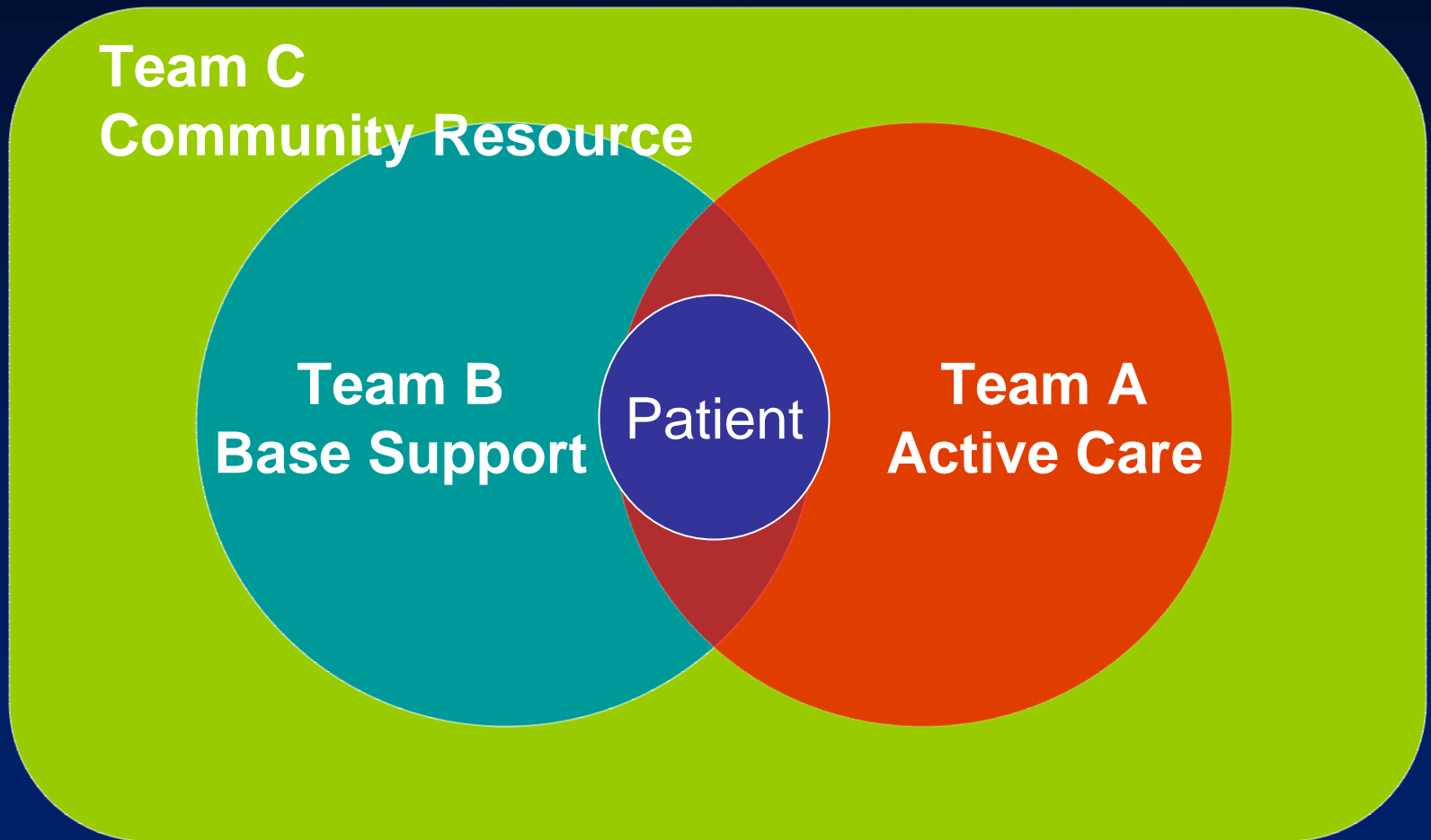
薬剤師

その他の医療従事者

# なぜチームオンコロジーABCが 必要か

- よりマクロ的かつ多角的な視点でチーム医療をとらえるために
- よりミッション(理念)とビジョンを共有化するために
- より多くの職種をとりこむために
- より患者中心の医療を実現するために

# チームオンコロジーのABC



# チームオンコロジーABCの職種の配置例

チーム A	チーム B	チーム C
医師 看護師 薬剤師 放射線技師 栄養士 リハビリ療法士 病理技師 etc.	臨床スピリチャルケア 心理職 福祉職 ソーシャルワーカー 音楽療法士 絵画療法、 アロマセラピー 図書館 倫理士 etc.	家族, 友人 基礎研究者 疫学研究者 製薬メーカー 診断薬メーカー 医療機器メーカー NPO/NGO マスメディア 財界 政府 etc.

# Team Aのマインドセット

## Active Care Team

職種 <span>の</span> 配置	医師、看護師、薬剤師、放射線技師、栄養士、リハビリテーション療法士、病理技師など
役割、特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>• 患者に医療を直接的に提供する</li><li>• 問題解決型</li><li>• EBMとコンセンサスに基づく治療による患者の満足の達成</li><li>• EBMの発信</li></ul>

# Team Bのマインドセット

## Base Support Team

職種 <span>の</span> 配置	臨床スピリチュアルケア、福祉職、心理職、ソーシャルワーカー、音楽療法士、絵画療法士 アロマセラピスト、図書館司書、倫理士
役割、特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>• 主観のケア：対話型ケア</li><li>• 共感的関わりとサポート：治療の基盤整備</li><li>• 患者のニーズをサポートする</li><li>• 患者の主観的な課題への取り組みの証人</li><li>• 患者の物語の能動的な聴き手</li><li>• 自己決定を促すことで、患者の満足度の向上を図る</li></ul>



# Team Cのマインドセット

## Community Resource

職種の配置	家族、友人、基礎研究者、疫学研究者 製薬メーカー、診断薬メーカー、医療機器メーカー、 NPO/NGO、マスメディア、財界、政府など
役割、特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>• 患者のニーズを間接的にサポートする</li><li>• 患者及びチームA、Bを包括的にサポートする</li><li>• 責任ある市民の視点を発信</li><li>• 地域資源の活用</li></ul>

# 課題

## チームAの課題

- Team Aの役割を果たす
- Team Bの役割を知り、連携
- Team Bの技法をスキルとして身につけ実践する
  - 評価的でない傾聴
  - 問題解決を急がない

## チームBの課題

- Team Bの役割を果たす
- Team Aの役割を知る
- Team Aとの柔軟なcommunication
- Team Aへのケア
- Team Aの基本的医学知識を身につける

# チームCは何をすべきか

- AとBの真の役割を知る必要がある
- 断片的ではない、包括的な知識、情報を身につけて、責任ある市民性の回復を目指す
- チームオンコロジーの方向性をつくる

# チームオンコロジーABCの関係

- 環境と患者のニーズによりABCのマインドセットの比率が変化する
- 患者の治療の流れの中でABCのマインドセットの比率が各職種で変化する

# チームオンコロジーのABC

**Team C**  
**Community Resource**

**Team B**  
**Base Support**

**Patient**

**Team A**  
**Active Care**

# チームオンコロジーの目指すのは

- EBMの吟味と創出
- 質の高いチーム医療の普及
- Team ABCの概念の普及
- 患者とパートナーシップの普及
- 高尚な倫理・道徳の医療への導入と普及
- Do the right things !

# **M. D. Anderson Cancer Center Japan Team Oncology Program (J-TOP)**

Sponsored by:  
St. Luke's Life Science Institute

Governed by:  
The University of Texas M. D. Anderson Cancer Center

THE UNIVERSITY OF TEXAS  
**MD ANDERSON**  
**CANCER CENTER**  
*Making Cancer History™*

# 6年間の活動の軌跡

2001年

◎第39回日本癌治療学会特別シンポジウム  
(於: 広島)  
2001年11月7日  
14:30-18:30  
『Decision Making for Cancer Treatment : Who and How?』  
パネリスト:  
MDアンダーソンから7名  
日本側7名  
(特別発言) 日野原先生

◎市民フォーラム  
『乳がん治療、患者主役の時代に向けて』(横浜)  
2001年11月11日  
司会: ワット隆子、中村清吾 / パネリスト: 上野直人、玉橋容子、柳原和子  
(特別出演)  
日野原先生 ご発言

2002年

◎第1回教育セミナー  
2002年9月14日-16日  
会場: 京都リサーチパーク  
※詳細別紙

◎教育シンポジウム2002  
『チームで学ぶ乳がんの標準治療』  
2002年10月19日  
パネリスト  
M.D.アンダーソンから7名  
日本側5名  
(特別発言)  
日野原先生 ご発言

2003年

◎第2回教育セミナー  
2003年9月19日-21日  
会場: 千葉/かずさアカデミーホール  
※詳細別紙

◎Training Program in Huston 2003  
医師: 2003年4月7日-5月30日  
コメディカル: 2003年5月12日-5月30日

◎教育シンポジウム2003  
『患者ベネフィットを目指すチームアプローチ』  
2003年9月23日  
M.D.アンダーソンから7名  
日本側8名  
(特別発言)  
日野原先生 ご発言

2004年

◎第3回教育セミナー  
2004年9月17日-19日  
会場: 東京/都市センターホール  
※詳細別紙  
日野原先生ご参観

◎Training Program in Huston 2004  
医師: 2004年4月12日-6月4日  
コメディカル: 2004年5月17日-6月4日

◎Alumni Conference  
2002年度~2004年度の教育セミナーの卒学生が集合し、日本国内の施設におけるチーム医療実践方法についてカンファレンスを開催

◎記者発表会開催  
於: 東京会館  
2004年9月16日

2005年

◎第4回教育セミナー  
2005年9月23日-25日  
会場: 大阪/アジア太平洋トレードセンターホール  
※詳細別紙

◎Training Program in Huston 2005  
医師: 2005年4月25日-6月17日  
コメディカル: 2005年5月30日-6月17日

◎チームオンコロジー.Comスタート  
会員向ラーニング・ネットワークプログラム  
①CD-ROM(年2回発行)  
②Webサイト

◎特別企画  
①日本乳癌学会サテライトシンポジウム  
②第43回日本癌治療学会  
於: 名古屋  
特別シンポジウム開催  
(特別発言) 日野原先生

2006年

◎第5回教育セミナー  
2006年9月22日-24日  
会場: 京都リサーチパーク  
※詳細別紙

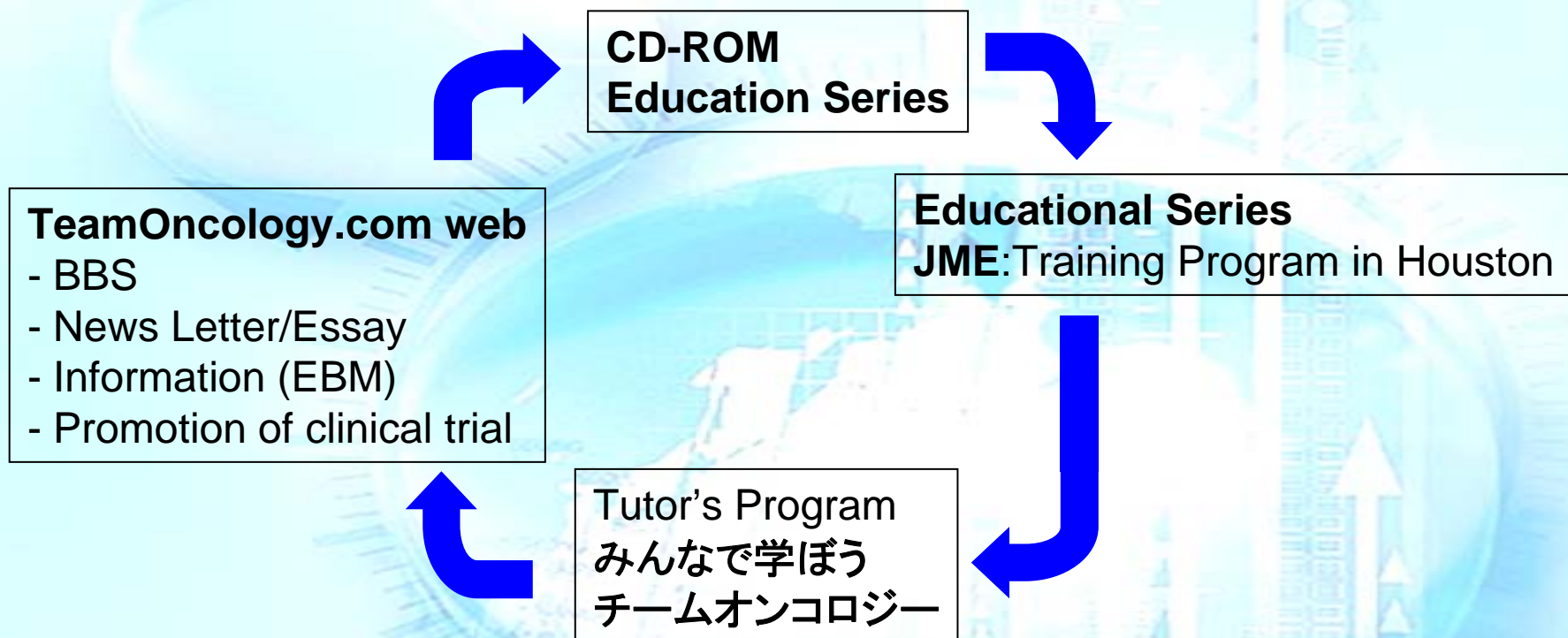
◎Training Program in Huston 2006  
医師: 2006年4月3日-5月26日  
コメディカル: 2006年5月8日-5月26日

◎チームオンコロジー.Com追加企画  
①Webサイト一般向  
②記者発表会の開催  
③掲示板と連載コラム第3回みんなで学ぼうチームオンコロジーの準備

◎記者発表会開催  
於: 聖路加看護大学  
2006年11月16日



# 2001-2007年の活動



2001-2007年

- チームオンコロジーの普及
- 薬剤師、看護師のがん医療における重要性
- オンコロジー・エキスパートの重要性

2007年以後

- **日本型のがんチーム医療の確立**
- **日本における エビデンスの創出 ができるがんチーム医療リーダーの養成**

# Mission

- The mission of TeamOncology is to establish and promote evidence-based multidisciplinary cancer treatment in Japan through outstanding educational and training programs for healthcare providers and the public.
- チームオンコロジーのミッションは、医療従事者や一般の方々に向けたさまざまな先進的な教育およびトレーニングプログラムの提供を通じて、日本において、科学的エビデンスに基づいたがんチーム医療の概念を確立し、実践しうる形式で普及させていくことにあります。



# Vision

- We shall be the premier program of its kind for health care professionals for the development and implementation of multidisciplinary care of cancer patients in Japan based on the excellence and enthusiasm of our faculty and participants.
- われわれは、本プログラムに関わるすべての人間のひたむきな情熱と優れた知恵をもって、日本のがん患者に対するチーム医療の実践と発展にむけて、医療従事者のための最高品位の教育コンテンツの提供を目指します。

# M. D. Anderson Cancer Center Japan TeamOncology Program

Educational Program for Oncology Specialists in Japan TeamOncology Program consists of following three components

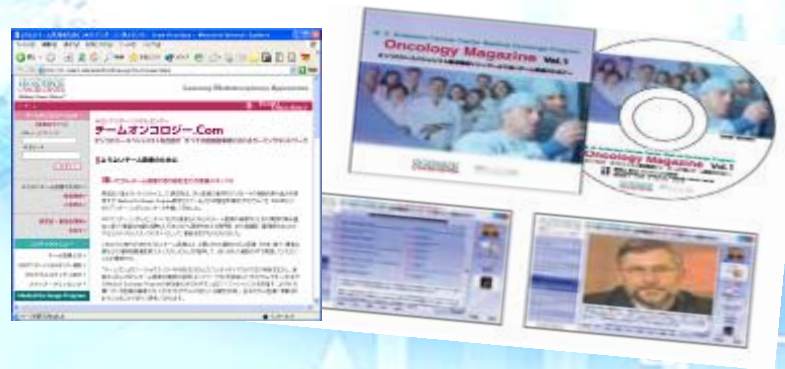
## 1. TeamOncology Workshop



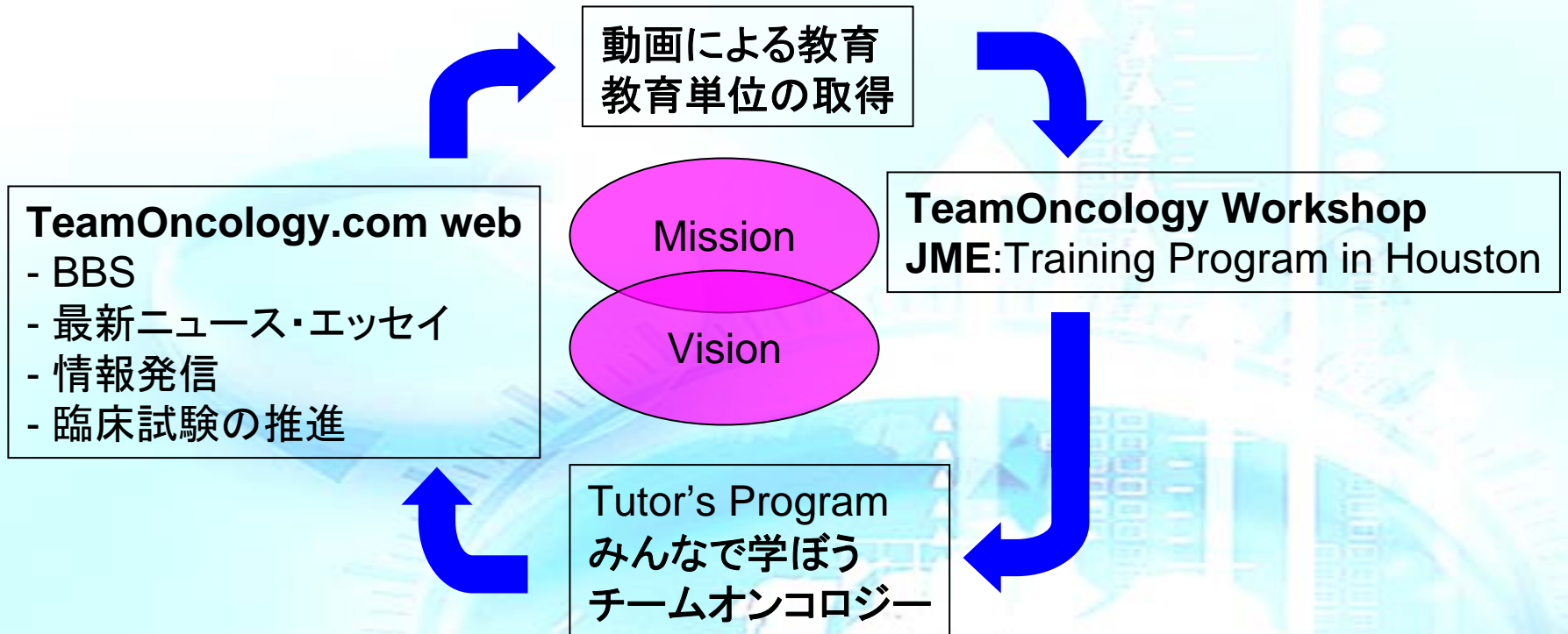
## 2. JME Program



## 3. Learning network “TeamOncology.Com”



# Japan TeamOncology Program



組織図のタイトル





# M. D. Anderson Cancer Center Japan TeamOncology Program

## 1st TeamOncology Workshop 幕張、千葉県





# TeamOncology Workshop

## 目的

- **がんチーム医療を推進するための各職種間のコミュニケーション力を高める**
- **チームオンコロジーの旗振りをするための個人のリーダーシップ力をつける**
- **チームオンコロジーを現実化していくために、がん臨床での対策と実践法を学び、EBMの発信力を養う**

# ワークショップの基本的な流れ

講演とそのテーマ:EBM、リーダーシップ、コミュニケーション  
チーム医療実現を阻む主な障害を乗り越えるために



リーダーシップ力とコミュニケーション力  
向上に焦点を当てる

リーダーシップとコミュニケーション能力から2008年度のヒューストンでの研修者を選抜する

実践的な研修  
医師:臨床試験プロトコール  
看護師:クリティカルパス  
薬剤師:プレプリンティドオーダー



2種類のグループワーク  
1: 違ったセグメント手法を用いて  
2: ベストなケアとプログラム創り



各グループの発表とディスカッション

# MDACC Mentors

## Medical Oncologists



Naoto T. Ueno, MD,  
PhD, FACP  
Medical Oncologist



Richard L. Theriault,  
DO, MBA, DSc(Hon.)  
Medical Oncologist & IRB Chair

## Surgical Oncologists



Barry W. Feig,  
MD, BA, BS  
Surgical Oncologist



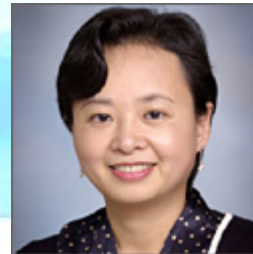
Paul F. Mansfield,  
MD, FACS  
Surgical Oncologist

## Radiation Oncologist



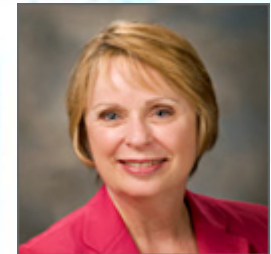
Zhongxing Liao, MD  
Radiation Oncologist

## Clinical Statistician



Yu Shen, PhD  
Biostatistics & Applied Math

## Executive Director



Janis Apted, MLS  
Executive Director,  
Faculty Development

## Advanced Practitioner Nurses

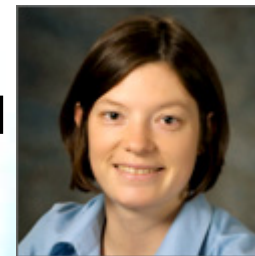


Terri S. Armstrong,  
PhD, APRN, BC  
Advanced Nurse Practitioner



Joyce L. Neumann,  
MS, BSN  
Advanced Nurse Practitioner

## Oncology Specialized PharmDs.



Hillary A. Prescott,  
PhD, BCOP  
Pharmacy Clinical Specialist



Hetal B. Shah,  
PhD, BCOP  
Clinical Pharmacist

MDACC Program Committee consists of these mentors, a pathologist and International Program Director.



# Japan TeamOncology Program (J-TOP)

よろしくお願ひいたします。 [uenonaoto@mac.com](mailto:uenonaoto@mac.com)

[www.teamoncology.com](http://www.teamoncology.com)



THE UNIVERSITY OF TEXAS  
**MD ANDERSON**  
**CANCER CENTER**

*Making Cancer History®*